

薬系シンクタンク

薬事政策研究所

(薬研)

保険薬局経営者連合会

はじめに

今なぜシンクタンクなのか？

分業目的の達成に疑問を示す 厚生労働省保険局課長 宇都宮氏

医薬分業の現状について、「医薬分業の目的が達成できているのか、薬局がその機能を果たしているのかに関して疑問を感じている」

「（調剤報酬改定の議論に際しても）従来方針を踏襲するということではなく、薬局が本来の目的・機能を果たしていないのはなぜか、今後高齢化社会の中でどういう方向にすすめていくべきかをきちんと議論して方向性を見出すこと大事だ」

院内より高いメリットの調査が必要 中医協委員 安達氏(京都府医師会副会長)

(院外処方、)「院内処方より高いメリットは何なのか。それを患者はどう感じているか」
薬剤師会へ調査を求める。

後発品使用率の低迷を問題視

中医協委員 白川氏（健保連専務理事）

後発品の使用促進に関連して、「加算まで付けているのにまだまだかなり低い使用割合にとどまっている。薬局の薬剤師はどういう使命感を持ってやっているのか問いたただいたいくらいの気持ちだ」

また、門前薬局の実態に言及 「薬局のロケーションが偏りすぎているのではないか。大手調剤チェーンと個人薬局の機能の違いも議論する必要がある。」

医薬分業を巡る声

(メリット)

- ①医師にとって手持ちの薬に縛られず自由に処方できること
- ②医師と独立した立場の薬剤師により処方をチェックすることにより、薬価差益による多剤投与を抑制し、薬剤の適正使用を促せること
- ③複数の医師による処方箋を1軒の薬局で調剤することにより重複投与や相互作用のチェックによる副作用の防止が期待できること
- ④処方箋を介して患者が薬の名前を知ることができ、情報公開の流れに沿うこと

(デメリットの指摘)

- ⑤過去の日医総研の指摘にもあるように医薬分業を進めることにより、患者に「二度手間」等の負担が発生しているのではないか
- ⑥特に、規制改革会議WGの指摘にもあるように診療報酬上の評価により医薬分業によって、かえって患者負担が増え、ひいては医療費が増大しているのではないか
- ⑦そもそも会計検査院の指摘にもあるように、薬剤師が診療報酬上の評価として期待されている専門的能力を発揮していないのではないか

医薬品ネット販売、国の敗訴が確定一最高裁、禁止規定は「無効」

医療介護CBニュース 1月11日(金)20時44分配信

平成25年1月11日



一般用医薬品のインターネット販売規制の是非をめぐり、ネット販売業者のケンコーコム株式会社と、有限で、最高裁第2小法廷(竹中)を認めた事

特集 中小零細薬局「大淘汰」の本格到来
ZAITEN
2013 JANUARY 1
サイテン

西武「再上場不適格」グループ再建は後藤社長の退陣にあり
「残る薬剤師」
「消える薬剤師」



【金曜討論】

「調剤ポイントの禁止」

2012.12.21 07:26 (2/4ページ)

●経済的誘因はダメ

ークレカや電子マネーのポイントはまだ禁止、していない。公平性の問題は？

「専門家でないので断定的なことはい、力や電子マネーは支払、クレカが使

定例記者会見
「エパデールのスイッチOTC薬化について」
ー中川副会長



第2次安倍内閣の経済政策運営組織図

内閣（閣議）

経済再生担当相

一体改革
担当相

マクロ政策
（再起）

ミクロ政策
（新）

経済財政
諮問会議

日本経済
再生本部

議長：首相
メンバー：関係閣僚、
民間有識者ら

本部長：首相
メンバー：全閣僚

産業競争力会議

構成：有識者、
関係省庁など

連携

- 財政運営、予算
編成の基本方針
- 経済財政政策の
重要事項審議

- 国際戦略
（海外投資、
経済連携）
- 産業戦略目標
の設定

社会保障制度改革国民会議

事務局は内閣官房



Factor1: 「国としての効率性（ローコスト国家）」

達成するための打ち手

J a p a n A g a i n

三木谷 浩史

▶ 国家運営の高コスト構造の抜本的改善

- ▶ IT活用によるパブリックセクターの徹底的な効率化
(例: オンライン手続きの充実、政府データの民間開放)
- ▶ 公務員の削減・給与システムの見直し
- ▶ 国民番号制度の有効活用(官民で活用できることが重要)

▶ 医療・福祉サービスの低コスト化

- ▶ 不適正な報酬体系の是正(例: 調剤報酬の見直し)
- ▶ 医療のIT化(例: 医薬品のネット販売、診療情報のクラウド共有)
- ▶ 外国人の積極活用

▶ 日本に立地する企業環境の高コスト構造の抜本的改善

- ▶ 戦略的な税制改革
 - ▶ 法人税の減税
 - ▶ 資本の有効活用促進(キャピタルゲイン課税10%の特例措置の継続等)
- ▶ 電力・通信等のインフラコストの低廉化(競争原理の導入)

7月1日より薬務対策室を設置

昨今の薬事・薬務の課題に対応するため、薬務対策室を設置

日医は、また、第八回常任理事会（六月十一日開催）において、事務局の再編成を行い、七月一日より、薬務対策室を地域医療第一課の中に設置することを決めた。

同対策室は、昨今のスイッチOTC化の問題や一般薬のインターネット販売等の薬事諸問題に対応するために設置するものであり、室長には行政経験のある薬剤師を充てることにしている。

今後は、関係のある医事法・医療安全課、医療保険課、治験促進センターとも連携しながら、薬事・薬務の課題に対して、一元的に取り組んでいくこととなる。



公益社団法人

日本薬剤師会

Japan Pharmaceutical Association

『マテリア・メディカ(薬物誌・ディオスコリデス著)』
ウィーン写本より: 明治薬科大学明薬資料館所蔵

●委員会

組織・会員委員会
法制委員会
医療保険委員会
一般用医薬品委員会
地域保健委員会
地域・在宅医療委員会
編集委員会
広報委員会
薬局製剤・漢方委員会
生涯学習委員会
薬学教育委員会
医薬分業対策委員会
情報システム検討委員会

DI委員会
医薬品情報評価検討会
薬価基準検討委員会
医療安全対策委員会
DEM委員会
公衆衛生委員会
環境衛生委員会
医薬品試験委員会
ドーピング防止対策委
国際委員会
政策研究委員会
災害対策委員会
年金委員会

政策研究委員会
7月3日開催

●職域部会

薬局薬剤師部会
病院診療所薬剤師部会
製薬薬剤師部会
行政薬剤師部会

学校薬剤師部会
農林水産薬事薬剤師部会
卸薬剤師部会

だから今・・・

なぜ、薬局、分業への批判が止まないのか！

我々は何をして、何をしなかったのか！
何を間違えたのか！

これらを精査し、今後進むべき方向を示して、行動を起こさなくてはならない。その核となる組織がシンクタンクであり、そこに人、叡智、その他もてる資源の多くを集中させる必要がある。

なぜ薬剤師による、株式会社シンクタンクなのか

- ①日本薬剤師会による調査研究の成果物は・・・
 - ・大手シンクタンクによる予定調和の結論
 - ・本質があぶりだされていない。
- ②現場を知っている薬剤師が主導するシンクタンクが薬局から生のデータ、声を集めることで、核心に迫る成果物が生み出せる。
- ③職能団体である薬剤師会がためらうような事案の意見表明や提言なども、株式会社のシンクタンクであれば、発信しやすい。

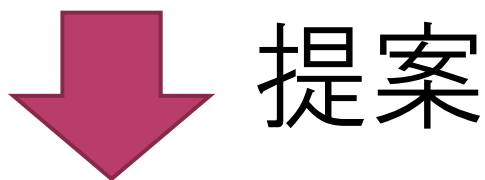
薬研の

ミッション

患者価値を高める

薬局制度を構築する

『患者にとって薬局はどのような価値をもっているのか』



社 会

- 国民
- 政府
- ステークホルダー

薬 局



薬学的価値

の提供



患 者

環境整備

シンクタンク
薬研

障害物を取り除き
道を整えていく

薬研の顧客

主顧客 : 薬局

副顧客 : 日本薬剤師会
(パートナー) 都道府県薬剤師会
政府
医薬品関連企業

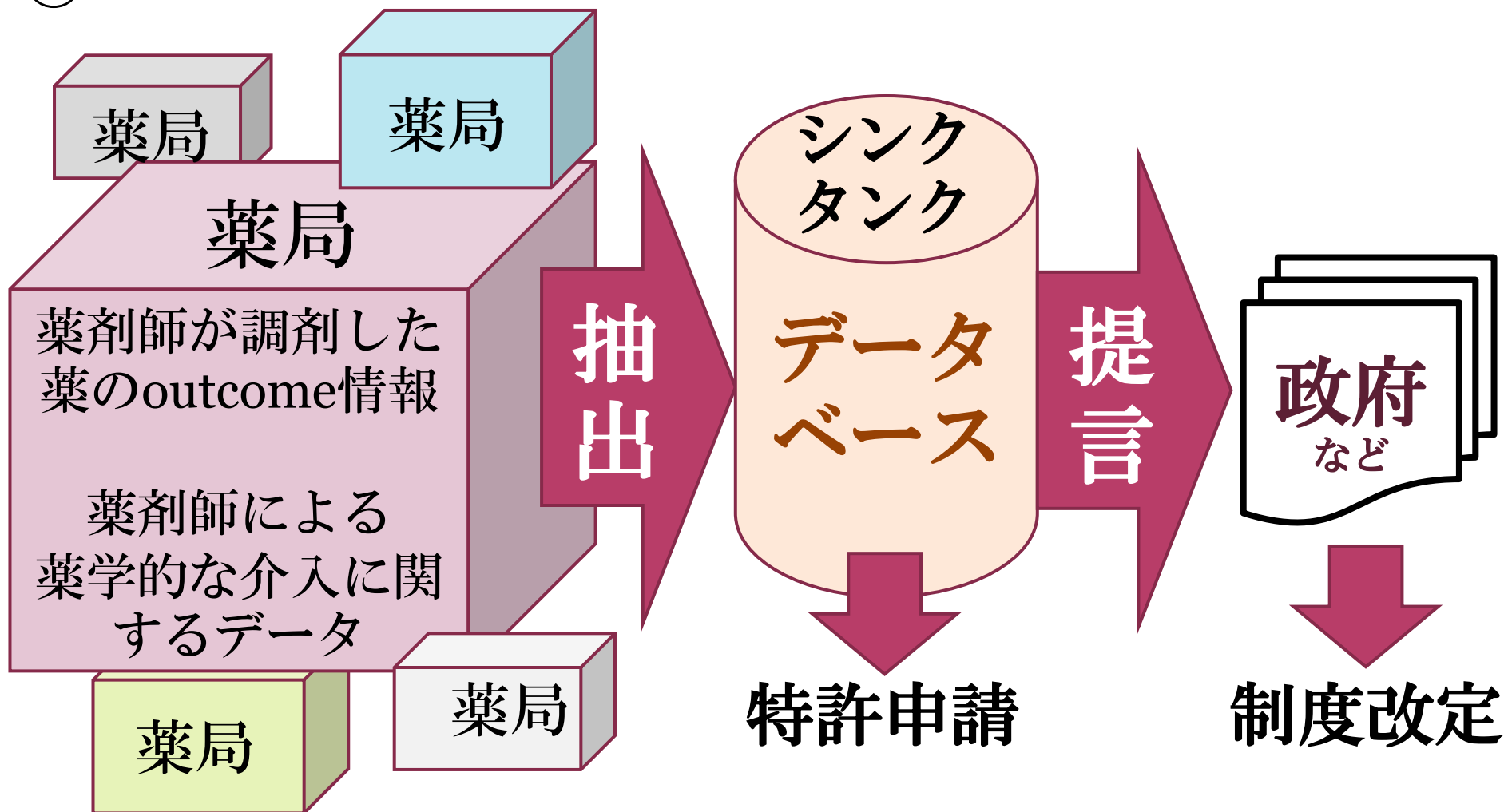
薬研が提供する 価値

薬研が提供する価値

- ①個別の薬局や経営者団体では持たえない情報発信力を提供します
- ②薬局が患者価値を高めるためのシステムを提供します

薬研が提供する価値

③



「データに基づく患者との コミュニケーションシステム（仮）」

	メリット	デメリット
シンクタンク	薬経連会員数 増加による収入増	開発費 保守費
エンドユーザー ＝薬局薬剤師	手軽な情報源	報告の手間
患者	薬剤師の対応が 改善する	調剤時間 ↑
購入者 ＝薬局経営者	患者の囲い込み	患者一人当たりの 所要時間 ↑

シンクタンク

事業・リソース

薬研の4事業

システム開発

手段 & 主要収益元

研修事業

会員サービス

政策提言

ミッション遂行のための手段

調査研究受託

副収入

制度改定



薬研のリソース

- 人的リソース

主任研究員 ： 田代 健

システム開発及び運用については、アウトソースを考えている。

- ソフトウェアリソース

「Prairiedog」

薬研の

スケジュール

システム開発のスケジュール①

- I 2013年秋まで
有害事象報告アプリ（Prairiedog）
＞300ユーザー
＞90症例/日
- II 2013・2014年冬まで
医薬品変更情報共有機能
Prairiedogに追加

システム開発のスケジュール②

- Ⅲ 既存レセコンと連動した薬物治療評価システム
（全調剤データについて評価）
- Ⅳ クラウド型電子薬歴
（薬物治療評価以外の情報も集計）
（電子お薬手帳化）
- Ⅴ 医薬品供給マネジメントシステム

その他のスケジュール①

社外集合研修

- 〈新人用〉 ①入社直後（4月頃） 2泊3日
②1年後の5～6月頃 2泊3日
③5年後 同様に

〈スキルアップ研修〉

年3回程度開催、テーマ別で選択自由

その他のスケジュール②

社内研修支援

会員薬局が独自に行う研修に関し、テキストや資料などの提供を通して、サポートしていく。

例；疾患別薬物治療ガイドラインなど

最後に

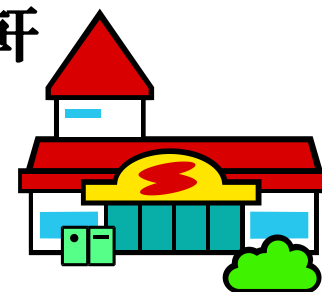
我々に残された時間は？

⇒早急に有効な成果物を出す必要がある

10年後

～厚生労働省 健康日本21より～

健康ステーション機能薬局
15,000軒



残40,000軒は？



〇〇専門薬局？
△△ドラッグ？

現在薬局数
55,000軒



お願い

会員の皆様には、後日出資等の資金調達に関するお願いをする予定です。

また、会員以外の方で、主旨に賛同いただける方のご協力も、併せてお願い致します。